

## 小路駅(地下鉄千日前線)

## 清見原神社から難波寺まで

北巽駅(地下鉄千日前線)

「大阪あそ歩マップ集」  
その1 No.039

## 地下鉄小路駅

## ① 清見原神社

清見原神社はもともと大友村の氏神で、天武天皇宮と呼ばれていましたが、明治40年(1907)の神社合祀令にともない、近隣の四社を合祀し、村名をとって小路神社となりました。その後、祭神である天武天皇に因んで清見原神社と改称されました。この近くに吉野見という地名が残っていますが、これは昔、天武天皇が難波に行宮されたときにこのあたりを通り、吉野はどの方角にあたるかと、振り向かれたことから起こったといわれ、いまも吉野見通りという古い街道があります。



## ② 釈翠岩墓所

享保年間(1716~35)に翠岩さんという、生まれつき慈善心の強い人がおられました。本名は松江太郎右エ門といい、中川村の豊かな農家でした。翠岩さんは中川村や近郷の村人のために私財を投じて道普請をしたり、川に石橋を11カ所も架けたり、貧しい人たちへ救米などをされていました。そして晩年は剃髪して住吉屋翠岩と名乗りました。その後、息子・伝兵衛にも先立たれたため、田畑一町六反歩を村に寄付され、62歳で世を去りました。以後、2月22日を村民の休日と定め、翠岩さんの遺言

により、その田地からの所得米は村人たちに平等に施米され、これは近年まで約200年以上続けられてきました。今も中川町財産区として存続し、区役所と連絡しながら財産管理、運営にあたっています。

## ③ 横野堤

仁徳天皇によって築かれた横野堤は、『万葉集』に「紫の根延ふ横野の春野には君をかけつつ鶯鳴くも」と詠まれています。堤の上には紫草の白い花が美しく咲いていたのでしょう。横野堤は、橘川(古平野川)右岸にあたり、河水の氾濫と玉造江の潮流を防ぐために築かれた堤防です。南に下ると、延喜式内社のひとつだった横野神社跡があります。社地には、平成4年(1992)、前述の『万葉集』の歌碑が建立されました。揮毫は万葉学者の犬養孝先生の筆によるものです。

## ④ 難波寺

▼ もともとは上六(近鉄・大阪上本

町駅あたり)の東辺にあった古刹で、聖武天皇が東大寺の大仏開眼供養のため、天竺の僧・波羅門菩薩など海外の高僧を迎えるにあたって難波丘陵の高台に精舎を建立したことが寺のはじまりといわれています。江戸時代から明治にかけて難波寺は「野中の観音」と呼ばれ、市中の人々に親しまれ、春は桃と桜の花見、秋は観月の名所でありました。また、歌舞伎で有名な『茜染野中の隠井』の悪人・梅浜由兵衛による夫婦共謀強盗殺人事件の舞台となった寺でもあります。本尊は行基作と伝わる十一面観世音菩薩です。大正14年(1925)、近鉄・上本町駅(現・大阪上本町駅)拡張工事にともない、現在地に移転しました。



地下鉄北巽駅

